

受入側を対象にした本取組実践校への要望事項等 に係るアンケート調査の結果概要

平成28年9月
(一財)都市農山漁村交流活性化機構

調査概要

1. 調査の目的

受入側における学校側が受入側に求める要望をかなえる受入体制等の整備状況及び学校側への要望事項について整理するために、受入側を対象にしたアンケート調査を実施した。

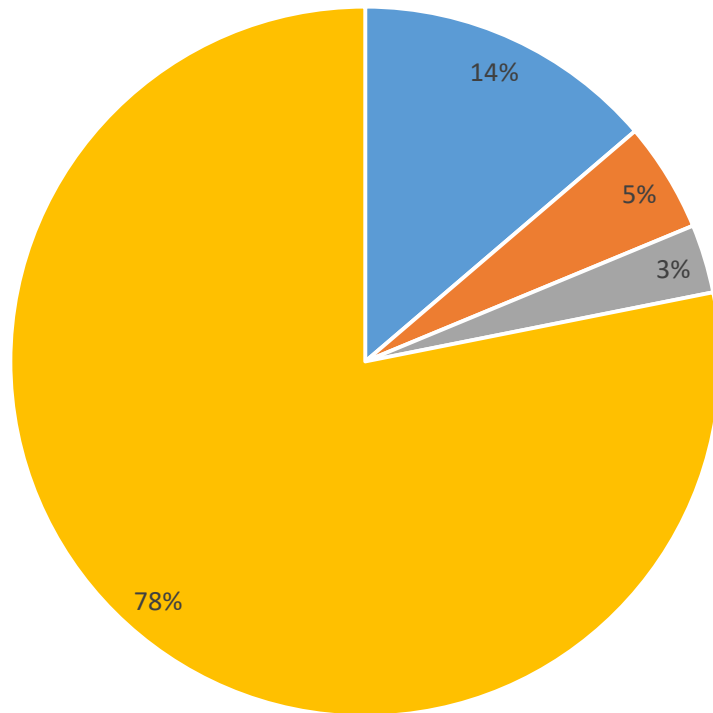
2. 調査方法等

- ・ 対 象：一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構に登録している受入地域協議会 170箇所
- ・ 調査時期：平成28年7月4日～7月22日
- ・ 調査方法：郵送によるアンケート票の送付
- ・ 回答手段：3つの回答方法を使用した。
 - ①郵送（先に送付したアンケート票に必要事項を回答したもの）
 - ②eメールによる送信（PDF形式のアンケート票に必要事項を回答したもの）
 - ③インターネットのWEBアンケートフォームによる回答

3. 回答数：151件

4. 回答率：88.8%

Q1 長期宿泊体験活動(4泊5日以上)の受入実績について(複数回答)



- ①小学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある
- ②中学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある
- ③高等学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある
- ④学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がない

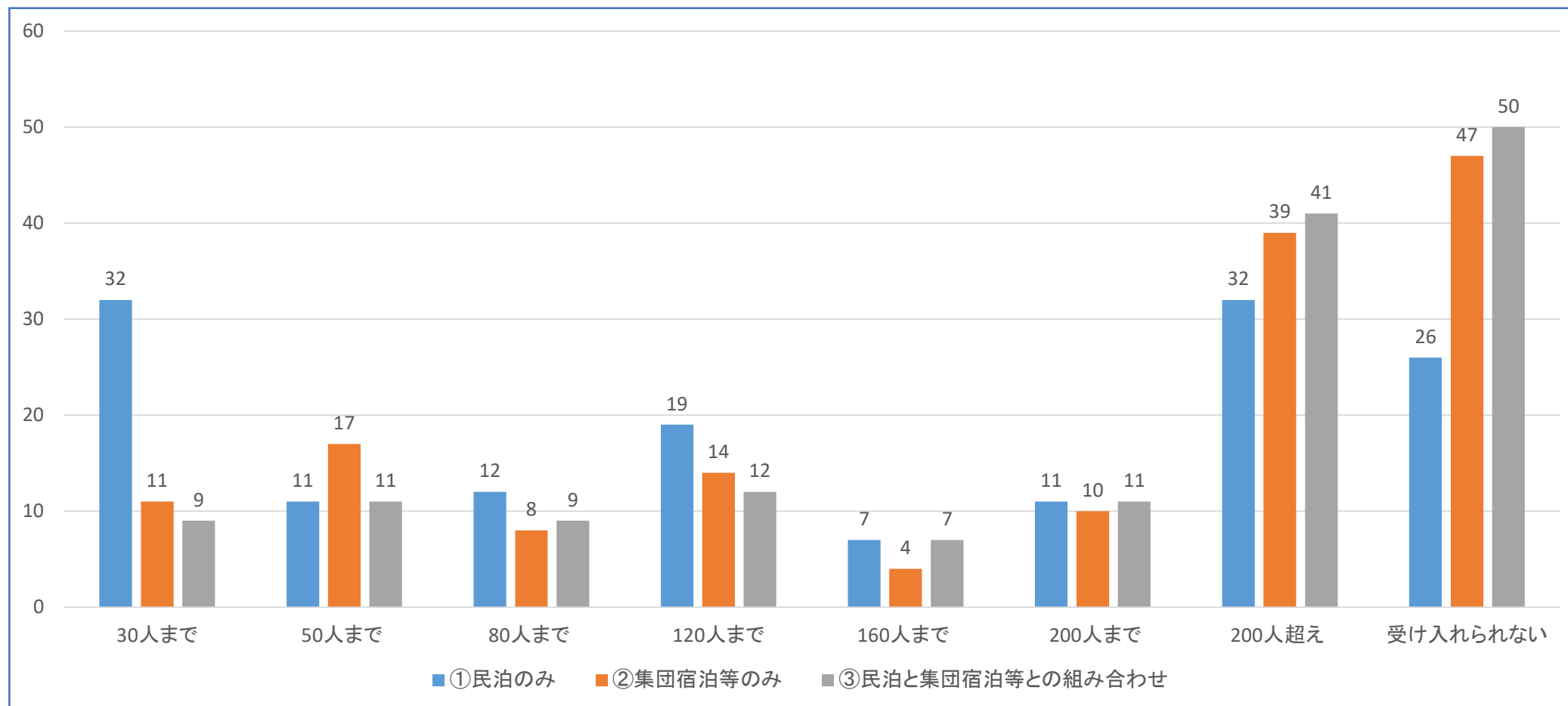
協議会数	170
回答数	151
回収率	88.8%

(協議会数)	
①小学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある	22
②中学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある	8
③高等学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がある	5
④学校による長期宿泊体験活動(4泊5日以上)を受け入れた実績がない	125
総数	160

(協議会数)	
小学校のみ	15
中学校のみ	2
高等学校のみ	2
小学校・中学校	4
小学校・高等学校	1
中学校・高等学校	0
小学校・中学校・高等学校	2

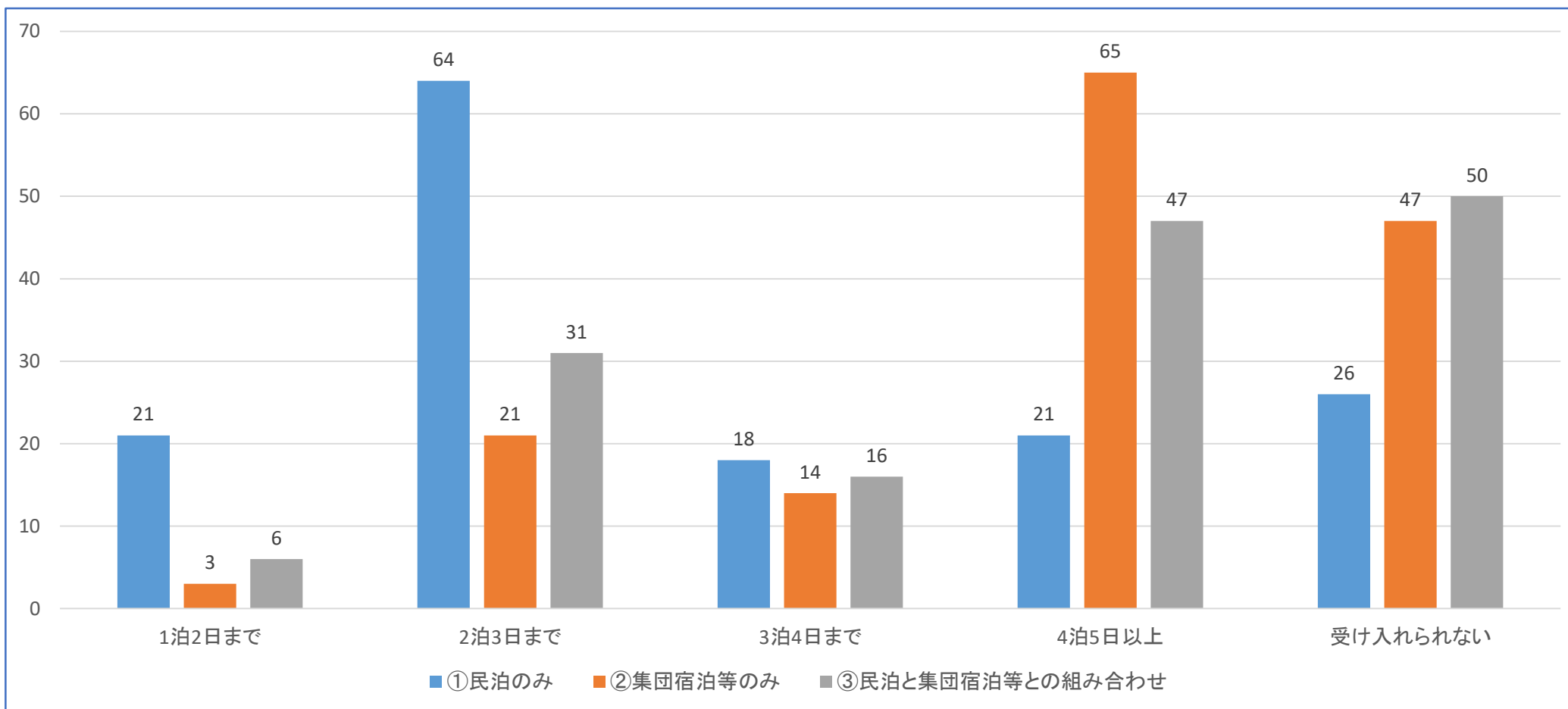
Q2 一度に受け入れられる最大人数について

	30人まで	50人まで	80人まで	120人まで	160人まで	200人まで	200人を超え	受け入れられない
①民泊のみ	32(21.2%)	11(7.3%)	12(7.9%)	19(12.6%)	7(4.6%)	11(7.3%)	32(21.2%)	27(17.9%)
②集団宿泊等のみ	11(7.3%)	17(11.3%)	8(5.3%)	14(9.3%)	4(2.6%)	10(6.6%)	39(25.8%)	48(31.8%)
③民泊と集団宿泊等との組み合わせ	9(6.0%)	11(7.3%)	9(6.0%)	12(7.9%)	7(4.6%)	11(7.3%)	41(27.2%)	51(33.8%)



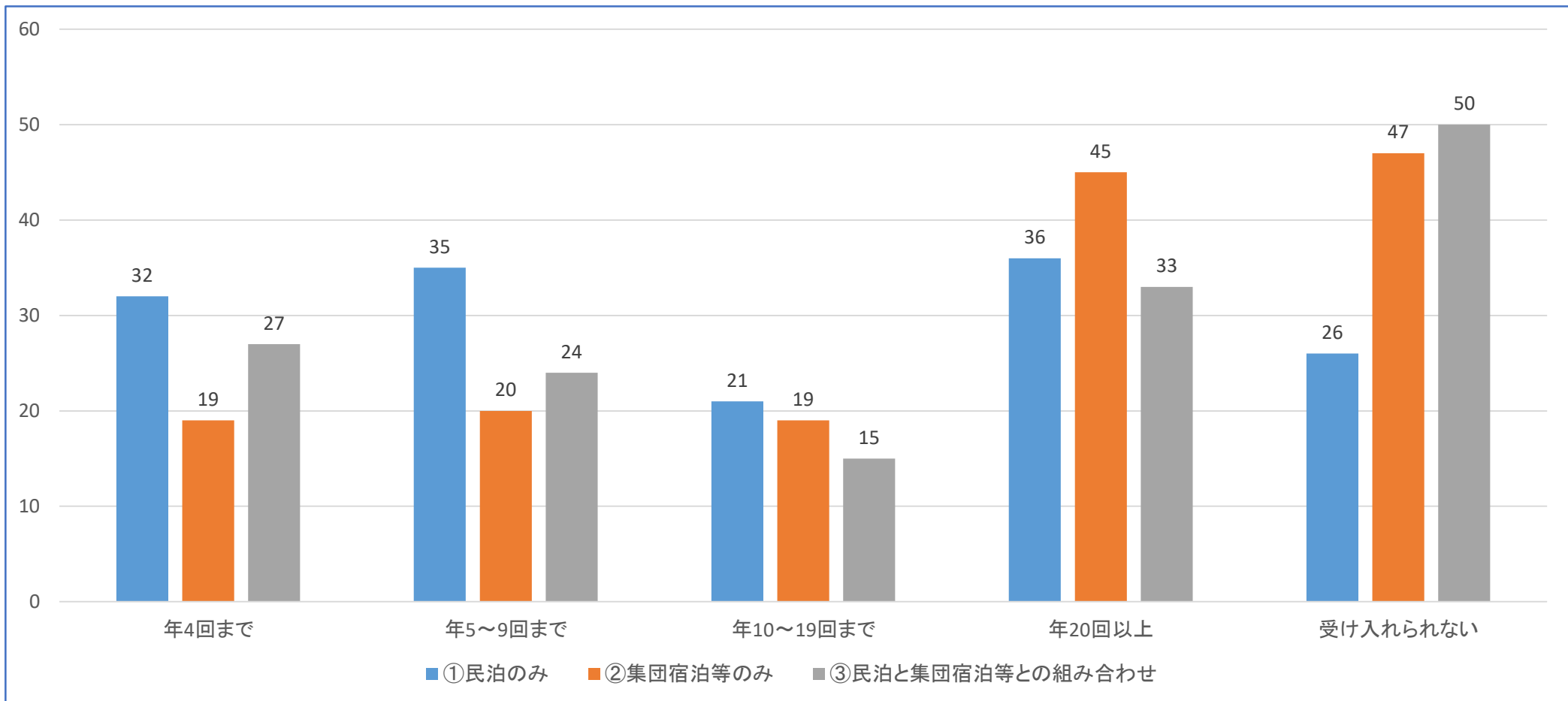
Q3 一度に受け入れられる最多泊数について

	1泊2日まで	2泊3日まで	3泊4日まで	4泊5日以上	受け入れられない
①民泊のみ	21(13.9%)	64(42.4%)	18(11.9%)	21(13.9%)	27(17.9%)
②集団宿泊等のみ	3(2.0%)	21(13.9%)	14(9.3%)	65(43.0%)	48(31.8%)
③民泊と集団宿泊等との組み合わせ	6(4.0%)	31(20.5%)	16(10.6%)	47(31.1%)	51(33.8%)



Q4 受け入れられる年間の回数について

	年4回まで	年5～9回まで	年10～19回まで	年20回以上	受け入れられない
①民泊のみ	32(21.2%)	35(23.2%)	21(13.9%)	36(23.8%)	27(17.9%)
②集団宿泊等のみ	19(12.6%)	20(13.2%)	19(12.6%)	45(29.8%)	48(31.8%)
③民泊と集団宿泊等との組み合わせ	27(18%)	24(16%)	15(10%)	33(22%)	51(34%)

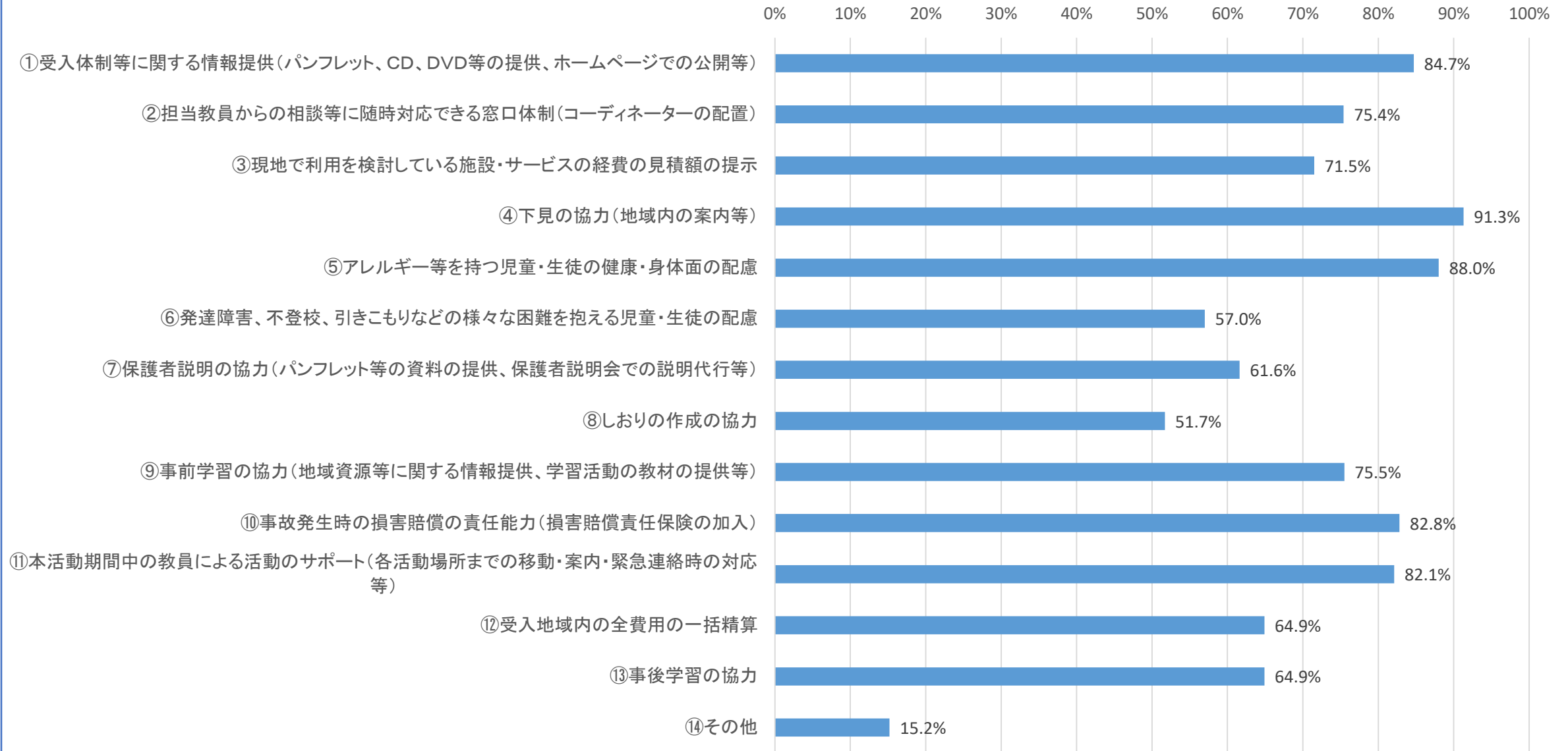


Q5 宿泊体験活動の受け入れに当たり学校向けに対応できる事柄(複数回答)

①受入体制等に関する情報提供(パンフレット、CD、DVD等の提供、ホームページでの公開等)	128	84.7%
②担当教員からの相談等に随時対応できる窓口体制(コーディネーターの配置)	114	75.4%
③現地で利用を検討している施設・サービスの経費の見積額の提示	108	71.5%
④下見の協力(地域内の案内等)	138	91.3%
⑤アレルギー等を持つ児童・生徒の健康・身体面の配慮	133	88.0%
⑥発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒の配慮	86	57.0%
⑦保護者説明の協力(パンフレット等の資料の提供、保護者説明会での説明代行等)	93	61.6%
⑧しおりの作成の協力	78	51.7%
⑨事前学習の協力(地域資源等に関する情報提供、学習活動の教材の提供等)	114	75.5%
⑩事故発生時の損害賠償の責任能力(損害賠償責任保険の加入)	125	82.8%
⑪本活動期間中の教員による活動のサポート(各活動場所までの移動・案内・緊急連絡時の対応等)	124	82.1%
⑫受入地域内の全費用の一括精算	98	64.9%
⑬事後学習の協力	98	64.9%
⑭その他	23	15.2%

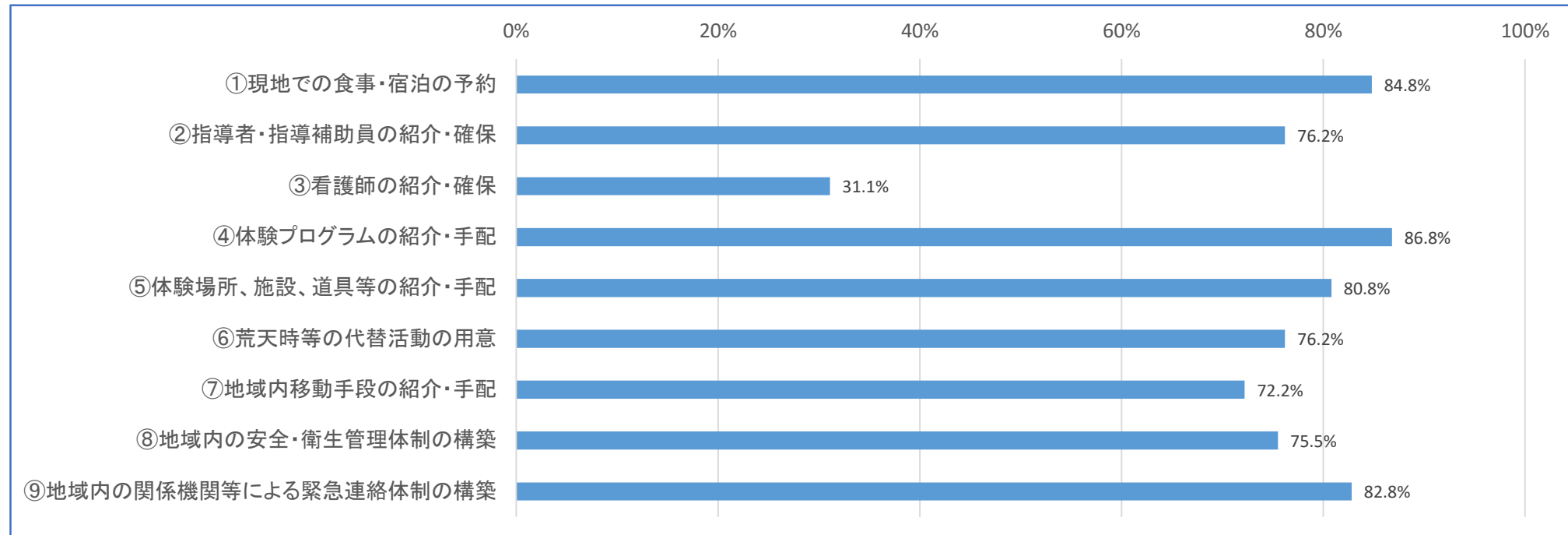
宿泊体験活動の受け入れに当たり学校向けに対応できる事柄、⑭その他について

- ・中山間地域の農業地帯なので、季節ごとに体験メニューが異なる。春夏秋冬に特化した取り組みも可能なので、学校側からの要望があれば、より充実したプログラムやメニューを提供しやすい。
- ・直接学校へ出向き、受け入れにかかるプレゼンテーション活動。
- ・10名以上の宿泊につき、1泊一人1,000円の宿泊助成。
- ・バス代助成金の新設を検討中。
- ・全体で食事をする場合の弁当等の手配。
- ・交換留学や帰国子女生徒の外国対応(主に英語)。
- ・秋にりんご贈呈。
- ・学校の要望に応じたプログラムの開発。
- ・受入時の写真やアンケートを送付。
- ・受け入れに伴う行政バックアップ体制あり。
- ・宿場のまちづくりを街歩きチケットを受入農家と一緒に使いながら街の歴史を共通体験した後に、閉村式を行うオリジナルプログラムが固定化。
- ・⑬事後学習の協力については学習発表会等に参加し、わら細工指導等を行っている。
- ・⑥発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒の配慮について学校、保護者との要相談になると思うが、付き添い等の条件がご了解頂ける場合は、民泊体験滞在も協力できると思う。
- ・⑥発達障害、不登校、引きこもりなどの様々な困難を抱える児童・生徒の配慮についてスタッフの知識が少ないため研修等必要だと思う。
- ・⑩事故発生時の損害賠償の責任能力(損害賠償責任保険の加入)について、NPO法人を通じて受け入れた団体には適応可能。それ以外についてはその都度対応。
- ・⑪教員の活動のサポート(各活動場所までの移動・案内・緊急連絡時の対応等)として、緊急連絡時の対応は行っている。



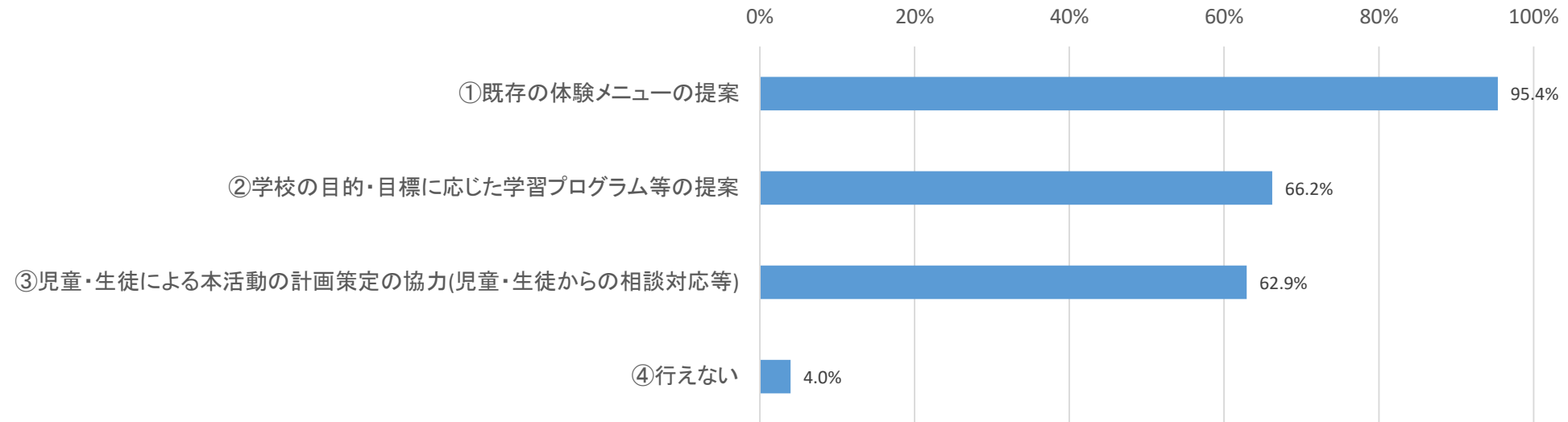
Q6 宿泊体験活動の受け入れに当たり地域内で一括手配できる事柄(複数回答)

①現地での食事・宿泊の予約	128	84.8%
②指導者・指導補助員の紹介・確保	115	76.2%
③看護師の紹介・確保	47	31.1%
④体験プログラムの紹介・手配	131	86.8%
⑤体験場所、施設、道具等の紹介・手配	122	80.8%
⑥荒天時等の代替活動の用意	115	76.2%
⑦地域内移動手段の紹介・手配	109	72.2%
⑧地域内の安全・衛生管理体制の構築	114	75.5%
⑨地域内の関係機関等による緊急連絡体制の構築	125	82.8%



Q7 学校が宿泊体験活動の計画を策定する際に協力できる事柄(複数回答)

①既存の体験メニューの提案	144	95.4%
②学校の目的・目標に応じた学習プログラム等の提案	100	66.2%
③児童・生徒による本活動の計画策定の協力(児童・生徒からの相談対応等)	95	62.9%
④行えない	6	4.0%



Q8 今までに、宿泊体験活動を受け入れた際に生じた学校側とのトラブル

✚ アレルギーによるトラブル

- ・受入時に、動物アレルギーによる宿の当日変更。
- ・宿泊施設側の確認不足でアレルギー代替案と違う食品がでてしまい、直前確認で未然に防ぐことはできたが危うく事故につながるところであった。
- ・民泊する子ども達のアレルギーや持病の情報が十分に伝えられず、宿泊時にホストファミリーが子ども達への対応に苦慮した。
- ・そばアレルギーの生徒が民泊した時、その生徒の枕はそば殻でないものにしたが他の生徒はそば殻の枕を使用したため、軽度なそばアレルギーが発症した。
- ・小麦アレルギーの生徒の昼食を別メニューにしたところ、加工食品に小麦粉が入っていて救急車を呼んだ。
- ・最初の調査だと飼っていなかったが野良猫が住みついており、猫アレルギーの生徒が病院へ行った。
- ・アレルギー情報が学校、保護者、生徒の3名で認識（答え）が異なる。
- ・学校（保護者）からのアレルギー情報の不完全な提示による、食事提供時の不都合。

✚ 食品によるトラブル

- ・賞味期限切れの食材を利用し、食べた生徒が腹痛を訴えた（原因がその食材であったかは不明）。大事には至らなかったがその直後、他校の修学旅行体験の受け入れを中止し、市販品を渡すこととした。それ以降、各体験指導者に体験で使用する食材の賞味期限を確認・記載した一覧表の提出を義務付けている。
- ・集団食中毒が過去2回発生（受入家庭2軒）。2泊3日の農泊終了後、下痢症状が数人に見られノロウイルスによる食中毒と診断されたが、全員症状は軽く数日で回復。
- ・食中毒の発生（カンピロバクター）。帰宅後発症したが原因は特定されず、おそらくバーベキューの鶏肉。

✚ 特別支援等によるトラブル

- ・特別支援等が必要な生徒の情報を当日に知ることが多いため、民泊受入等に影響している。

🚩 生徒によるトラブル

- ・「朝起きてこない」、「指示に従わない」など生徒指導上問題のある子どもの情報が共有できていなく、学校の先生を呼んで指導してもらったことがある。
- ・生徒同士によるスマホ使用等での民家の誤解を生む情報交換。
- ・生徒の喫煙、徘徊等。
- ・生徒が受入民家の飼い犬に噛まれてケガをした。檻の中で飼育していたが、その隙間から手を差し込んだため、犬が驚いて噛まれてしまった。事前に動物との接し方（扱い方）の注意、あらかじめ標示をしておくことが必要だと感じた。
- ・民泊先で、家に置いてあるものがなくなった。
- ・受入農家のふすまを破損したにも関わらず、生徒は受入農家や学校の先生に何も言わずに帰校。しばらく経った後、事実を確認し学校に伝えたが、何の対応もなかった（当該生徒が卒業していた）。以来、その農家では受け入れを行っておらず数年後、会も退会した。
- ・生徒の素行について、情報をもらえない場合に家族の方とトラブルになる。
- ・生徒による落書き・器物破損等。

🚩 学校側によるトラブル

- ・先生の態度が悪い。通常であれば、巡回時に受入農家への挨拶があるべきだが、直接生徒と話しそのまま帰る先生もいる。
- ・当日いた人数を先生が把握していなかったため、精算時に料金が違うと言われる。
- ・体験活動中の子ども同士の不注意による軽事故案件に対して学校側が保護者にする説明が不十分。
- ・巡回・体験会場に行く先生の人数変更が当日多く困る。
- ・アレルギー表、民泊割、乗船名簿、自己紹介カード等々、学校側の提出が遅すぎる。事前にインストラクターや民泊先への説明会の日程を連絡して期限を打ち合わせているが守ってもらえないことが多い。
- ・不登校児童の出欠確認がなかなかできず、当日キャンセルということがあった。
- ・こちらが提示した滞在スケジュールと学校側の「しおり」のスケジュールが一致しておらず当日混乱を招いた。
- ・子どもの健康チェック表の作成が遅く、再三の要望を出した。送られてきた内容も実態と異なるものだった。

🚩 事前説明の不備によるトラブル

- ・学校側と生徒の話し合いが薄く、生徒が体験プログラムを嫌った発言があった。こちら側の窓口は、担当の先生なのでその辺の話し合いがスムーズであって欲しい。
- ・生徒に「民泊」の目的が伝わっていなく、ホテル等と勘違いしていることもあった（家庭からのクレーム）。

✚ 受入側によるトラブル

- ・ボイラーの故障により大浴場の浴槽内が高温となり子どもが火傷してしまった。
- ・受入家庭のコミュニケーション不足・受入家庭の急な変更。
- ・受入中に生徒の個人情報と同宿する他の生徒に知られ、受入後に謝罪に行った。
- ・民家の人がない、ほったらかし。せっかく来た民泊先なのに、「自由にしていっていいよ」と言われ、民家の人がない時間がありほとんど体験することがなかった。
- ・指導者の態度。ガムを噛みながら、タバコをくわえながらの指導。酒臭い、休憩中にビールを飲む。宿・指導者の服装・身なり(清潔感)。
- ・受入家庭の方が受け入れた生徒の病気等について勇気づける思いで諭したが子どもの感情を害し、保護者を通じて協議会に対するクレームへとつながった。
- ・受入家庭が生徒の家庭情報を必要以上に聞いたことで、生徒が不快な思いをした。
- ・車内に放置してあったお酒の缶を子ども達が見て飲酒運転をしているのではないかと誤解を招いた。
- ・民泊先での対応に差があり、クレームとなった。お客様扱いをして体験活動（農業体験）が少なかった。
- ・民泊家庭がSNSで受け入れの様子をアップしたが、情報発信する時は許可を取ってからと学校から注意があった。
- ・原則、受入家庭はお土産を渡してはいけないことになっていたが、お土産として「お米」を自宅に送ってしまった。学校側から他の児童との公平性からも受け取れないと指摘を受け、回収した。
- ・受入農家の一部が個人的に自らの農産物販売のチラシを生徒に渡したことがあり、大きなトラブルとはならなかったが会員内で今後控えることとした。
- ・当協議会では、旅館・民宿も民泊対応として受け入れを行っている。その旅館に宿泊した女子中学生6人の生徒から「コバエ」等の虫が多く、食事もう美味しくなかったと保護者から学校にクレームがあった。保護者会に当会長が出席しお詫びをして、宿泊費全額を返済した。梅雨の合間の天候では虫が多く発生することもある（学校も旅行会社も保護者のいいなり）。

✚ 体験活動によるトラブル

- ・ブヨ(ブト)に噛まれて足が腫れた。体験に半ズボン、半ソデを着てきたので長ズボン、長ソデを着て来るよう依頼した。
- ・荒天時に安全第一で荒天時メニューに変更しようとするすると晴天時メニューにして欲しいと何回も言われ困ることが多い。
- ・食品衛生を重視してプログラムを作ろうとしても獲れた魚を食べさせて欲しいなど無理を言うてくる。
- ・作物の生育や天候により農作業内容の変更が生ずる場合があり、作業内容が違うことを指摘されたことがあった
- ・体験活動時の注意事項の解釈が分かりにくく、苦情を受けた。
- ・それぞれの体験によって提供料理の内容（種類の多さ等）が違うことについて先生からクレームがあった。クレームのあった体験は、協議会員ではなく臨時で初めてお願いした体験であったため、協議会内で話し合い料金を割り引いて旅行会社に請求することとなった。
- ・天気が悪く予定していた活動が出来なかったが、代替の用意が不十分だった。

🚩 運営におけるトラブル

- ・受入家庭と生徒のマッチングが上手くいかず、受入後に謝罪に行った。
- ・受入家庭が受入直前まで決まらず、学校側に迷惑をかけた。
- ・複数地域での連携受入における、各協議会の事務・手続き方法の相違による混乱。
- ・男性1人で対応の受入家庭(民泊)に小学校の女子班を配宿し、体験後「怖かった」と感想がありクレームとなった。

🚩 旅行会社によるトラブル

- ・旅行会社が間に入っている関係で、意図が伝わらないことも多い。
- ・旅行会社が仲介の受け入れで、事前打ち合わせと異なる要求が当日になってでた。寝袋対応であったが貸布団の手配要求、引率教員の予定日以外の風呂対応など。どれも直接学校側と協議、説明すれば解決できることだと思うが、学校からの要望をそのまま地域・受入側に伝えるだけでしっかりとした仲介コーディネートをしない傾向がある。クライアント第一になる。
- ・事前に紹介の食事内容と当日の提供内容に相違があった。(仲介旅行会社との連絡ミス)
- ・エージェントとのトラブルがあった。企画提案、資料作り等全て現場任せ。全体工程表の変更を勝手に行った。

🚩 その他

- ・以前に他の地域でファームステイ体験があるからと、当地域での受入方法やスケジュールをよく確認せず思い込みだけで話を進められることがある。受け入れはそれぞれの地域によって内容等が違うものだと理解して欲しい。
- ・ケガをしてしまった子の保護者への報告が遅れ事情説明等2か月ほどかかった。
- ・体調不良による、対応・対処のアクシデント(緊急時対応)
- ・分宿になった場合、公平平等なサービスはできない部分もあるので事前に理解をお願いしたい。雨天代案に関しても事前説明はしているのでその範囲内での対応しかできない。
- ・エージェントの紹介の場合、情報が上手く伝わらないことがあるため、料金や体験内容を双方が共有できないことが現地で発生すると想定されるので、事前打合せはとても重要と考えている。

Q9 宿泊体験活動の受け入れをより円滑かつ充実したものとするため、学校側から事前に知らせて欲しいこと、あるいは要望したいこと

アレルギー・持病について

- ・食物アレルギーの程度について、給食での除去食の状況。
- ・食べ物、ハチなど重篤なアレルギー体質の生徒の情報を隠さずにもらいたい。事前に食料を購入するのに必要。過去に知らされず、作っが食べることができないことがあった。
- ・細かいアレルギー情報（例）卵：どの程度可能なのか。生はダメ、卵白がダメ、全卵なのか加熱なのか等。
- ・アレルギーについては事前に教えてもらい、代替案を出すことができる。しかし、そのレベル(卵でもつなぎまで×、加熱は○など)まで入っていないケースもあり、何度も確認することがある。
- ・食、動物を含めアレルギー情報は年々複雑化しているように感じるので、全てを事務局（受入側）に提示すること。その中から受入家庭に提示すべきことの精査の基準、指導をして欲しい。
- ・アレルギー情報や病歴等の徹底した情報提供。近年、アレルギーは植物・動物・食物・化学物質過敏症等、様々なアレルギー対応が求められる。相互の信頼関係をより強固なものにし、なおかつ安心・安全な受入体制強化を実施していく上で必要不可欠。
- ・アレルギー等はいただいた資料が大げさすぎて事実と違うことが多い。
- ・重度のアレルギー・持病等がある生徒は参加させないか、同行教員と同泊して欲しい。高齢の一般家庭での民泊体験で、重度のアレルギーや持病等の生徒受入は、受入家庭の負担が大きすぎて、受入家庭軒数の減少につながっている。高齢・過疎の地域に、どんな生徒も行かせるのは、地域の活性化や安全面でも疑問。
- ・アレルギー情報や薬、持病歴を聞いているが、いつも来てから追加やもらえる情報が不足していることも多く、民泊家庭が慌てて連絡をしてくることもある。受入側が安心して受け入れを行うためには安全面に関わる部分は確実な情報をもらいたい。

発達障害について

- ・特別支援学級（車椅子や発達障害）の生徒情報。対応が可能な受入家庭を選定するのに必要。
- ・個人情報管理の観点からまれに、持病や身体的特徴など知らされずに当日を迎えることがあった。何かあった時の心構えとしてこうした情報は予め知らせて欲しい。
- ・体験の内容によっては、体力が必要なものがある。ほとんどの学校は、下見を実施しているのでその際、先生に伝えているが、昨今の個人情報提供の事もあり、当日、稀に児童・生徒を拝見してから事前に連絡が欲しかったという事がある。
- ・アレルギーや発達障害を抱える児童・生徒の詳細な情報提供をもらえると安心して受け入れに臨めるという要望が多い。
- ・発達障害、不登校、引きこもりなどの情報。

生徒・学校について

- ・アレルギーや子どものプロフィール等を早めに送付して欲しい。学校から送られてくる情報も受入家庭に届くまでに色々な協議会をまわってくるので遅くなってしまう。
- ・参加者、児童・生徒の名簿について早めに送って欲しい。（遅くとも2週間前）
- ・喫煙歴のある子どもの情報を教えて欲しい。受入地区によって対応は異なるが、喫煙を発見した場合は直ちに本部に引き上げてもらう地区もある。過去にボヤ騒ぎになったことがある。
- ・受入家庭が事前に名前と顔を覚えるため生徒の顔写真付き自己紹介カード。
- ・学校の雰囲気や、生徒の様子など。
- ・生徒の趣味、好きなこと、部活動など。体験したい内容を事前に知らせてもらおうと受入農家はその情報を基にして色々と考えることができる。
- ・生徒たちの希望、どういう地域の学校、宿泊体験の回数、今まであった問題点など事前に教えて欲しい。
- ・受入家庭と生徒との交流（連絡先の交換、手紙のやりとりなど）を直接行わせて欲しい。
- ・民家との生活交流体験が民泊の重要な学びの場と位置付けて受け入れしているので、スマホの使用を控えて欲しい。
- ・原則巡回はしていないため、どうしても回って欲しい生徒の連絡。

先生について

- ・ホストファミリーに子ども達を預けっぱなしにしないように、学校側でも子ども達の様子を見て欲しい。
- ・こちらが提示する作業スケジュールの厳守。
- ・この活動（民泊体験）に関する知識や教育効果を多くの先生に知ってもらいたい。

事前・事後学習・事前説明

- ・民泊先により食事・体験メニューが違うことを保護者に説明し理解していただくよう努めて欲しい。
- ・体験活動中の携帯電話等の使用マナーについて徹底して欲しい。
- ・子ども達に体験活動の意義を事前に指導して欲しい。
- ・ホテルと違いホストファミリーと一緒に食事をして団欒をするので、子ども達が積極的に団欒の輪に入るような指導をして欲しい。
- ・子ども達へ時間管理について指導の徹底。朝食時間や集合時間を伝えても、朝寝坊、時間を守らない子が多い。
- ・事前学習の徹底（体験内容のこと、民泊の留意点、地域のことなど）。
- ・一過性の体験にしないため、体験によっては事後学習も行なって欲しい。
- ・農村生活体験に臨む生徒への事前指導（基本的な礼儀、自ら行動する意識、常識ある行動など）。
- ・体験そのものではなく、体験を通じた交流が第一目的のため、民泊体験の意義についての事前学習。
- ・農業体験のため、学校側から生徒へ適正な服装の事前用意連絡の徹底。
- ・宿泊地域の事前学習と民泊体験での心得を学んで来て欲しい。
- ・事前に生徒・保護者へ民泊について理解を図るとともに意義を伝えて欲しい（ホテルや旅館などの宿泊施設と勘違いしている方がいる）。

宿泊体験のねらい・目的

- ・何を目的とした宿泊を希望するのかを早めに教えて欲しい（目的に合わせ、こちらで用意できる提案可能）。
- ・学校の宿泊行事の具体的な「目的」「ねらい」についても共通認識がとれるよう、その点も含めて全面的に相談できると思う。
- ・学校側より生徒達に何を重点的に体験させて欲しいのかが知りたい。
- ・体験活動や民泊に何（どのレベル）を求めているのか学校の考えが事前に知りたい。農業体験なのか、生活体験なのか、体験できれば良いレベルか、生徒自らが考え行動するようなものを目指すのかなど。
- ・目的。農作業体験でも農業に対する理解や勉強が主なのか、自然や農村での暮らし触れ合いが主なのか等。
- ・希望する体験内容（農作業、調理、工作など）。

事前打ち合わせ

- ・教職員・保護者の理解と協力が欠かせないので受入地域から学校へ出向いてでも打合せを実施する。また、学校側の事前下見も必要事項としてお願いしたい。
- ・学校側担当者と受入協議会担当者との綿密な打合せが一番大切。
- ・なぜ？何のために実施するのか？という思いを共有するための機会を持つこと。事前学習・事後学習への参画。
- ・学校訪問等で先生方と十分な情報交換、目的の共有等を図らせて欲しい。

既に行っている事

- ・校長、担任は必ず当地まで下見に来て、民泊の方と対面し児童にあった宿を決めてもらう。
- ・安全対策の確認で災害発生時の避難場所や体験場所からの誘導方法等を理解してもらう。
- ・体験内容を把握して、学校で児童に説明できるようにしてもらう。
- ・児童から宿泊先のお父さん、お母さんへ事前に手紙を書いてもらう。
- ・生徒一人一人の自己紹介、健康チェック（アレルギーや持病の有無・内容）について、当方の書式に記入する形で提出してもらう。
- ・発達障害などを持っている児童に関しては必ず詳細に情報提供をしてもらう。
- ・メール・電話等による相談後、学校並びに受入地での下見打合せの中で受入体制を充足しているので、学校所在地、学年、人数、学習目的、研修内容、希望時期を知らせてもらう。

その他

- ・受入後に意見・指摘等を伝えて欲しい。
- ・宿泊体験活動の費用について、事前に見積書・請求書を学校側に渡しているが、事業終了後に経費の支払いとなっている。すべて立て替え払いとなるので、経費の前払いをして欲しい。
- ・修学旅行の時期が5～6月に集中するため、実施時期の分散化ができないか。春だけでなく秋の実施は不可能か。学校の行事日程や生徒の受験も控え無理であることは承知だが、受入側からすると時期の分散化ができれば身体的にも負担が軽減される。
- ・収穫できた農作物を持って文化祭などに出店する。
- ・受入家庭とのマッチングは協議会で実施したい。
- ・映像や画像の撮影許可の状況を知らせて欲しい。
- ・担当者の緊急連絡用の携帯番号。
- ・「民泊だけ」という条件をなくして欲しい。当市では既存民宿での民泊体験を受けている。初めから「民宿は外して欲しい」といわれると、民泊家庭は減少しており今後の継続が困難。
- ・時間に余裕をもった行程で来てもらえると、受入地域周辺で発生した思わぬ事故による遅れ、気象条件の変化にも慌てず対応できるため大変助かる。
- ・宿泊地区へ来る際の交通手段（電車、バスの違いにより時間のずれの目安となる）。
- ・観光協会を通しての依頼だった場合、宿と直接交渉せずに観光協会を通した形で密に連絡を取って欲しい。
- ・地元の食材を召し上がって欲しい。